

五輪選手村跡地の計画が発表！

未来予想図

首都圏

2025

五輪開催に向けて競技会場がある街を中心に再開発が目白押しの首都圏エリア。実は五輪後も多くの開発が進行中だ。今回は2020年から2025年ごろまでの注目のプロジェクトを中心に紹介する。五輪後の首都圏がどのように変貌・発展するのか。未来を予測しよう。

話を聞いた専門家



やすし
青山 侑さん

都市調査会代表。明治大学名誉教授。1967年に入社し、1999年～2003年、石原都知事の下で副知事を務める。2004年より明治大学教授。都市計画や都市政策に詳しい



これが
選手村跡地
プロジェクトの
全貌だ！

2020東京五輪の選手村跡地で開発される「HARUMI FLAG」の完成予想CG。板状棟は選手村を改修し、2つのタワー棟は大会後に新築される計画だ
(画像提供／三井不動産)

選手村跡地

選手村跡地に約5600戸を整備 都心至近の近未来の街が登場

首都圏の中でも特に大規模なプロジェクトとして注目されている、選手村跡地の再開発計画が明らかになった。2020東京五輪の選手村が建設されている晴海5丁目の約13haの土地に、5632戸の分譲・賃貸マンションと商業施設の合計24棟が整備・供給される。

現地は銀座へ約2.5km、東京駅へ約3.3kmと都心に至近の距離にあり、新橋駅や虎ノ門までBRT（バス高速輸送システム）が運行される。選手村として活用された板状棟の改修が2022年秋までに完成し、翌2024年春には2つのタワー棟の建設が完成する予定だ。

直径100mの中心広場など人が集う空間を随所に配置

開発区域内には地下に2000台を超える駐車場を整備する。それにより地上の空地率は5割を超え、約3000本の高木、そして約900本の中木が茂る緑が豊富なゆとりのある配棟計画が可能になった。建物の棟間隔は最大約70mを確保することで空が広く

感じられ、街の隅々まで太陽光が行き届く環境を実現。広場や中庭が随所に配置され、街の中心部には直径約110mの中心広場（CENTER CORE）が設けられる。居住者だけでなく、街を訪れる人も利用でき、自然と交流が生まれる空間だ。



CENTER COREはタワー棟のエントランスや商業施設、小中学校に囲まれている（完成予想CG）

分譲街区の25の共用室を 分譲街区の住民が利用可能

エリア内には合計51室の共用室を配置。「CAFE LOUNGE」や「BOOK LOUNGE」、「SPORTS BAR」など、多くのバリエーションで生活の質を高める。そのうち25室は分譲街区の住民なら誰もが自由に利用でき、住民同士がつながる空間に。



分譲街区の住民に開放されるキッズルームのKODOMO PLAZA（完成予想CG）

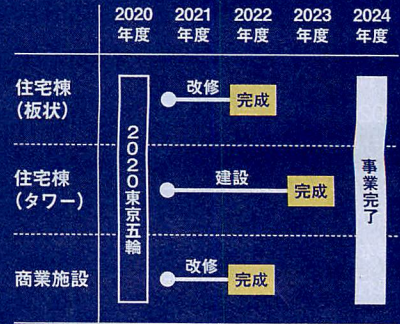
保育施設や小中学校を整備 多世代が住みやすい環境

2023年度には敷地内に小中学校も開設される予定。また、共用室にキッズルームがあるほか、賃貸街区に保育施設やシニア住宅、介護住宅などを設置。子育て世帯はもちろんシニア世代にも暮らしやすい環境だ。



敷地内に開設予定の中央区立小中学校イメージ案（画像提供/中央区教育委員会事務局）

● 選手村跡地の工事スケジュール



街並みは海から見渡した景観を意識してデザインされている（完成予想CG）

どこからも海が感じられる 開放的な街並みデザイン

中心部に2棟のタワーマンションを配置し、周囲に14～18階建ての板状マンションが建つ配棟は、三方を海に囲まれたエリアの特徴を活かした開放的な景観を生み出す。海沿いの建物が低く中央が高い独特のスカイラインは、タワーの比率が高い湾岸エリアのなかにおいて、ひととき目を引く街並みとなりそうだ。

生活に必要なものがそろう 商業施設を敷地内に配置

敷地内にはスーパーマーケットなどが入居予定の商業施設も建設される。都心や湾岸エリア内の他の地区まで足を延ばさなくても、徒歩圏内で生活に必要なものがそろう、利便性の高い暮らしを楽しむことができそうだ。



スーパーマーケットが入る予定の商業施設は板状棟と同じ2022年度に完成予定（完成予想CG）



湾岸エリア



タワーマンションだけではない 五輪レガシーで地域全体が活性化

計14種の競技会場となる湾岸エリアでは、数多くの開発プロジェクトが2020年以降に完成・着工を控えており、街が変貌するスピードは勢いを増すばかりだ。選手村跡地など五輪のレガシーを活かしつつ、それぞれのエリアで多種多様な街づくりが進行中。道路整備やBRT運行といった交通利便性の向上やエンタメ施設の充実で、より街の活気が高まることが予想される。

「都市計画は15～20年単位で進められるのが通常です。選手村跡地を含む東京湾岸は、今後15～20年で最も発展が期待できるエリアの一つといえるでしょう」(青山さん)



豊洲

湾岸都市開発の先駆け 大規模計画が今後も続く

豊洲地区は湾岸開発の先駆けともいえる存在だ。すでにタワーマンションや商業施設、オフィスが集積しているが、今後も大型商業施設やマンションなどのビッグプロジェクトが数多く控えている。築地市場が豊洲に移転したことで、さらににぎわいが増し、国内外から人が集まることが期待される。

「有楽町線や新交通ゆりかもめが通る豊洲は湾岸のなかでも交通利便性が高いエリアです。検討されている有楽町線の延伸が実現すれば城東エリアとのアクセスも向上し、東西線の混雑率緩和にもつながるでしょう」(青山さん)

1 2020年度 完成予定 豊洲二街区再開発

オフィス・商業・ホテルの複合ビルを豊洲駅前に建設

豊洲駅前でオフィス、商業施設、ホテルなどが入居するミクストユースの大規模複合ビルを建設。既存のららぽーと豊洲や豊洲公園、豊洲シビックセンターなどとデッキやブリッジで接続することで回遊性が高まり、にぎわいが創出されることに期待がかかる。災害時に備えて帰宅困難者の一時滞在施設も整備される。



海側から臨む外観パース (画像提供/三井不動産)

2 2021年度 完成予定 (仮称) 豊洲地区1-1街区開発計画

豊洲駅徒歩4分で1152戸 48階建のマンションを開発

有楽町線豊洲駅から徒歩4分、約2万4000㎡という規模の敷地を活かして、地上48階建て、総戸数1152戸のタワーマンションを計画中。スーパーマーケットと保育所を併設し、人と緑がふれあう大規模な緑化空間も整備した複合開発だ。エリアマネジメント活動により、水辺を楽しみながら交流できる街づくりを目指す。



東電堀から見た完成予想図 (画像提供/東急不動産)

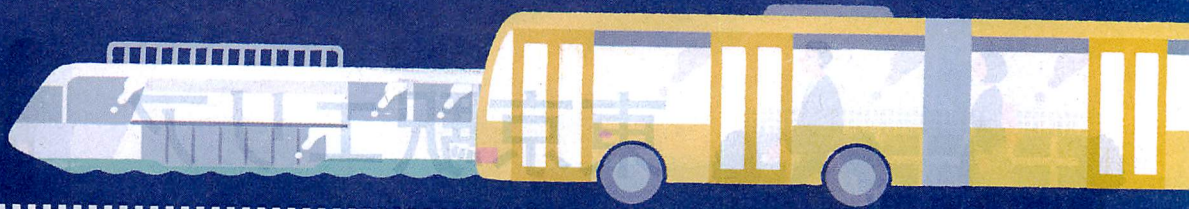
3 2022年 完成予定 豊洲市場千客万来施設

温泉・ホテル棟と商業棟の千客万来施設を整備

食を起点に日本の文化を発信する、温泉・ホテル棟と商業棟からなる千客万来施設を豊洲市場のなかに整備する。市場を訪れる人に、食の魅力を楽しみながら市場の活気やにぎわいを肌で感じられる場を提供。五輪後の2020年10月に着工し、商業棟では江戸の街並みを再現したオープンモールを展開する予定だ。

千客万来施設の完成予想CG (画像提供/万葉倶楽部)





月島・勝どき

都心に至近の立地が人気 駅の拡張で利便性アップ

湾岸エリアで最も都心に近い立地として、隣の佃エリアも含めて早くからタワーマンションの開発が進んだエリア。月島もんじゃストリートを中心に下町風情の残る月島地区をはじめ、勝どき地区や豊海地区などで1000戸級の大規模マンションが新たに複数誕生する予定だ。

「現在は2019年の完成を目指して都営大江戸線の勝どき駅で拡張工事が進むなど、利便性の向上でエリアのポテンシャルは高まっています。圧倒的な眺望と最新機能、安全性を備えたタワーライフを享受できる街として発展が期待できます」(青山さん)

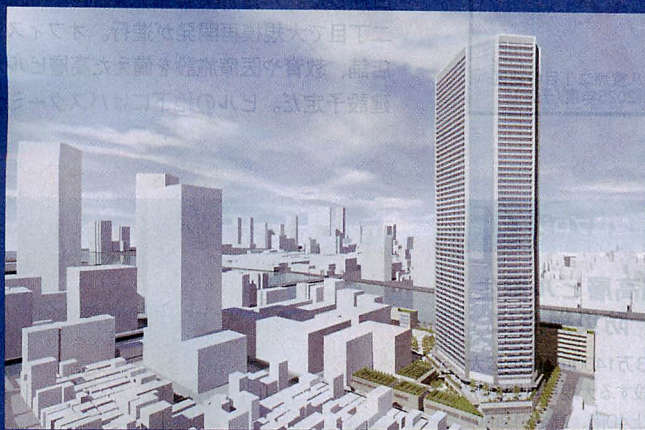
4

2025年度完成予定 月島三丁目北地区

下町風情の残るエリアがタワーマンション街に変貌

月島西仲通り商店街(通称、月島もんじゃストリート)に面する約1万5000㎡のエリアを3つの街区に分け、地上59階建てのタワーマンションや福祉施設などを整備する。タワー棟には約1120戸の住宅の

ほか、低層部分に店舗や保育所、高齢者施設が入る計画だ。木造建物の密集した地域が、隅田川の水辺と親しめる広場や交流施設を備えた災害に強い街に生まれ変わることが期待されている。



タワー棟の完成予想イメージCG(画像提供/月島三丁目地区再開発準備組合)

有明

五輪レガシーが集積 トレンド発信の中心地へ

五輪後に1万5000席の規模のスポーツ・文化発信拠点となる有明アリーナ(仮称)をはじめ、有明アーバンスポーツパークや有明テニスの森公園など、数多くの五輪レガシーが今後の街づくりに活かされる。すでに住宅や商業施設の開発も活発だが、新たにタワーマンションのほか、イベントホールやホテルなどを含む複合開発が計画されている。

「スポーツ施設やホールなどのエンターテインメント機能が高まり、地域全体のにぎわいが増すでしょう。都心と結び地下鉄構想など交通網の整備にも期待がかかります」(青山さん)

5

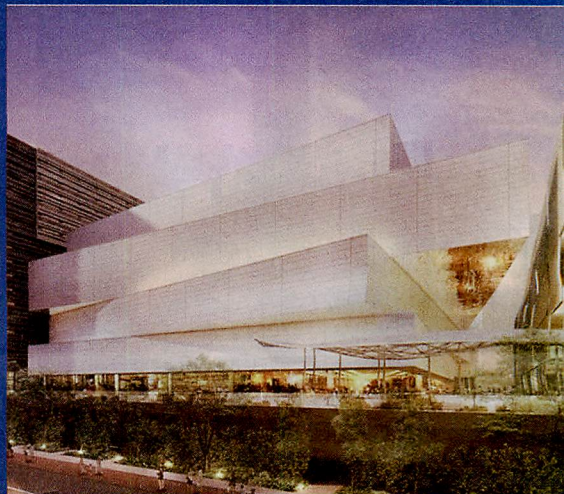
2025年度完成予定 有明北3-1地区

住居とホールやホテルとの複合でイベント機能が充実

計1539戸の3棟のタワーマンションと、商業施設やホテル、イベントホール、保育施設などを一体開発する、総開発敷地面積約10.7haの大規模プロジェクト。サービスアパートメントなどを含む宿泊機能や、イベントホールなどエンタメ機能を備えた、国内外の来訪者を受け入れる拠点を形成する。湾岸エリアの新たな拠点となりそうだ。



シティタワーズ東京ベイ全体外觀完成予想図(画像提供/住友不動産)



イベントホール完成予想図(画像提供/住友不動産)

BRTや水上交通の整備にも期待がかかる

交通利便性向上のため、BRTなどバス路線の整備が進んでいる。新設の環状2号線に高速バス路線が整備され、2022年度以降に虎ノ門から湾岸エリアまでを結ぶ路線が運行予定だ。大型客船が寄港できるよう、東京

都が青海地区に新たに客船ふ頭を整備し、2020年の完成を目指す。「BRTが運行されれば、都心へのアクセスが大幅に向上します。水上交通も整備が進み、多様な交通網を選択できるようになるでしょう」(青山さん)



新客船ふ頭の外觀イメージ(©東京都港湾局)

東京駅エリア



開発は丸の内から八重洲へ 高さ日本一のビルも建設予定

東京国際フォーラムや皇居周辺が競技会場となる東京駅周辺では、2020年以降、八重洲や日本橋エリアでプロジェクトが目白押しだ。八重洲では東京駅前の一丁目、二丁目で大規模再開発が進行。オフィスや店舗、教育や医療施設を備えた高層ビルが建設予定だ。ビルの地下にはバスターミナ

ルも整備される。日本橋方面では、2025年度に地上51階建ての複合ビル、2027年には東京駅日本橋口前に高さ約390mとなる日本一の超高層ビルが誕生予定。「丸の内や大手町に加えて八重洲や日本橋まで開発が広がることで東京駅周辺の価値は一層向上でしょう」（青山さん）

1

2027年度
完成予定

東京駅前常盤橋プロジェクト

高さ約390mの超高層ビル誕生 広場も整備され、防災拠点に

東京駅日本橋口前で約3万1400㎡という広大な敷地に4棟のビルを建設する大規模再開発が進行中。2021年4月に地上40階、高さ212mの複合ビル、2027年度には日本一の高さとなる約390mの複合オフィスビルなどが建設される予定だ。また、約7000㎡の広場を整備し、災害時に避難場所として活用する計画もある。（画像下）



完成予想イメージ（画像出展／東京都都市整備局HP）

3

2022年
完成予定

八重洲二丁目北地区

公立小学校や 子育て支援施設も入る

2022年8月、約1万3000㎡の敷地に高さ約240m、地上45階建ての超高層ビルが登場する。オフィスや商業施設に加えて、理数系教育が盛んな中央区立城東小学校の新校舎が入るほか、子育て支援施設なども入る予定だ。（画像下）



完成予想イメージ（画像提供／三井不動産）

2

2024年
完成予定

八重洲一丁目東地区

医療施設やオフィスが入る 地下にはバスターミナルを整備

合計約1万2000㎡からなる敷地のB地区に建設される地上50階建ての高層ビルには、オフィスや店舗に加え、医療施設やカンファレンス施設などが入る。地下にはバスターミナルが整備される。2025年竣工予定。（画像上）

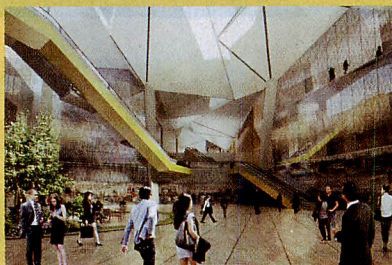
完成予想イメージ（画像提供／三菱地所）

交通TOPICS

虎ノ門エリア

新駅で交通利便性が向上 54階建てのレジデンスも

2014年の虎ノ門ヒルズ誕生以来、注目を浴びる虎ノ門エリア。日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」の誕生で利便性が期待できる。2020年に駅開きをし、2022年度に最終完成を目指す。新駅と一体的に開発されるのが「(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」で、「虎ノ門ヒルズ 森タワー」と同規模のタワーが建つ。さらに約550戸の住居が入る地上54階建ての「(仮称)虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」も竣工予定。



新駅と一体的に開発される複合タワー「(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」の駅前広場



レジデンシャルタワーは2020年度、ステーションタワーは2022年度竣工予定

完成イメージ提供／森ビル

渋谷駅エリア



激変する渋谷駅周辺 高層ビルが密集する摩天楼に

国立代々木競技場などの競技会場がある渋谷区。ターミナル駅である渋谷駅周辺は、五輪前後で姿が大きく変わるエリアの1つだ。渋谷駅周辺は2012年開業の渋谷ヒカリエを皮切りに、今年9月開業の渋谷ストリームなど新たなランドマークが次々と誕生。その集大成となるのが、2019年度から順次

開業予定の渋谷スクランブルスクエア。3棟からなる大規模複合施設で、最終完成は2027年度の予定だ。駅から少し離れたエリアも開発が進み、道玄坂二丁目の大規模再開発、宮下公園のリニューアル、NHK放送センターの建て替えなどを予定。渋谷駅周辺の魅力は高まり続けそうだ。



2027年度ごろの渋谷駅周辺の完成予想イメージ (提供/渋谷駅街区共同ビル事業者)

1 2019年～開業予定 渋谷スクランブルスクエア

五輪前に姿を見せ始める 渋谷の新ランドマークタワー

現在、工事真っただ中の渋谷駅ビル。まずは、2019年秋に渋谷エリアで最も高い約230メートルの渋谷スクランブルスクエア(東棟)が開業し、残り2棟(中央棟・西棟)も2027年度に開業予定だ。東棟の最上部には屋外と屋内からなる展望施設が整備され、360度のパノラマビューを味わえる。

3 2022年完成予定 道玄坂二丁目地区

道玄坂二丁目の敷地で ドン・キホーテが再開発

再開発を手がけるのはドンキホーテホールディングス。高さ120mのビルには店舗やホテルが入る。完成すれば街の回遊性が高まり、渋谷の新名所になる可能性を秘める。



完成予想イメージ (画像提供/ドンキホーテホールディングス)

2 2020年完成予定 新宮下公園

都心のグリーンオアシス 避難所など防災拠点としても

山手線沿いの宮下公園を整備する。緑地のほか、スケートボードやフットサルなどができる施設やマルシェやイベントなどが開催できる多目的広場、カフェなども整備。一時退避場所としても利用できる予定だ。



完成予想イメージ (画像提供/三井不動産)

交通TOPICS

品川・田町エリア

49年ぶりの山手線新駅登場 「高輪ゲートウェイ」に駅名決定

山手線の高輪ゲートウェイ駅は2020年に暫定開業し、街開きは2024年を予定。広大な敷地に4棟の高層ビルを建て、その間を回遊できるようにする。新駅の北側、都営浅草線の泉岳寺駅も駅施設を拡充予定。「泉岳寺駅は羽田空港と成田空港のどちらへも行ける交通拠点。再開発で魅力は高まる(青山さん)。開発は品川駅まで及び、京浜急行電鉄の地上化、リニア中央新幹線の東京始発駅開業を予定。



高輪ゲートウェイ駅前の歩行者広場の完成予想イメージ。(画像提供/JR東日本)



泉岳寺駅に隣接して約150mの複合ビルを建設。2024年度に完成予定のイメージ (画像提供/東京都)

横浜駅・MM21エリア



横浜駅西口のビルと広場が刷新 みなとみらい21はエンタメ充実

野球の競技会場となる横浜駅周辺は「グローバル化の推進」と「エンタメ施設の拡充」がキーワードだ。

横浜駅周辺では地上26階建ての駅ビルが誕生するほか、西口鶴屋地区には約180mの高層ビルを建設。グローバル企業で働く就業者などを対象にマンション、サ

ービスアパートメントなどの居住施設や多言語対応の保育所などを整備する。横浜駅西口から西口鶴屋地区までデッキを整備し、雨に濡れずに移動できるようにする。

みなとみらい21地区では、大規模な音楽専用アリーナなどのエンターテインメント施設が複数建設予定だ。

1 2020年完成予定 横浜駅西口

駅ビルと広場を整備 防災対策も強化

○新駅ビルは地上26階建て。4階まで吹抜けの atrium を設置し、開放的な空間を演出。地下に雨水貯留槽を設置したり、ホーム側に設けたデッキを津波時の一時避難所として活用したりするなど防災対策も強化する。また、中央西口広場も刷新。歩行スペースや待ち合わせ場所を拡充する再整備を予定している。

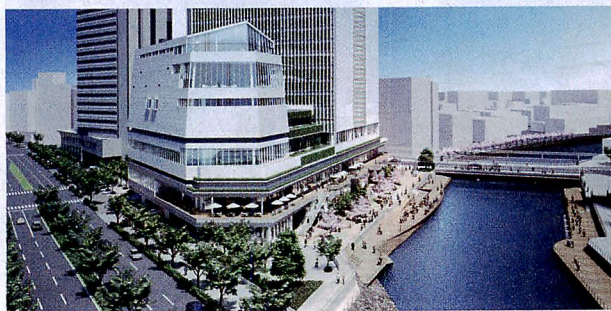


完成予想イメージ (画像提供/JR東日本)

2 2020年完成予定 横浜市役所新庁舎

行政機能を集約し一元化 市民が憩える水辺広場も

老朽化が進み、複数のビルに分散していたことから新庁舎を整備。2020年春の竣工予定。行政機能に加え、三層吹抜けの屋根付き広場や川沿いに回遊できる水辺広場を設けるなど市民が憩える空間を提供する。

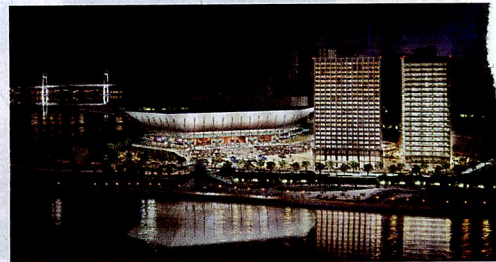


新庁舎の完成予想CG (提供/横浜市)

3 2022年完成予定 みなとみらい21

世界屈指の音楽アリーナ建設 オフィス街に新たな魅力

2020年に収容人数が1万人、2022年には同2万人という世界でも最大級の音楽アリーナが誕生予定。「モノ消費からコト消費に移るなか、音楽鑑賞の需要は高く、都心臨海部ににぎわいをもたらす」(横浜市みなとみらい21推進課)



2万人収容の音楽アリーナの完成イメージ(提供/ケンコーポレーション)

交通TOPICS

新横浜周辺エリア

相鉄線が都心まで直通 新駅開業で注目度アップ

サッカーの会場となる新横浜エリアのトピックは相鉄線の都心乗り入れだろう。2019年度下期にJRと西谷駅～新駅間で相互乗り入れ、2022年度下期には東急電鉄と新駅～日吉駅間で相互乗り入れし、都心まで直通運転する予定。新駅の羽沢横浜国大駅周辺は、住宅や商業施設が入った中高層ビル2棟の開発が計画されている。相鉄本線終点の海老名駅周辺でも大規模再開発「VINA GARDENS」が進むなど、同沿線から目が離せない。



相鉄と東急が相互乗り入れすると、横浜駅を経由せず、都心まで直通できる



羽沢横浜国大駅の完成予想イメージ (画像提供/相模鉄道)

幕張・稲毛エリア



幕張新駅の開業にも期待 未来の都市づくりを模索

近年は大規模商業施設が続々とオープンし、住環境が充実している幕張エリア。幕張メッセでは、2020東京五輪開催に向けて改修が急ピッチで進む。

そんななか、注目のニュースが幕張新駅の開業に向けた動きだ。千葉県と千葉市、イオンモールなどで構成される新駅設置協

議会とJR東日本が基本協定を締結。2024年度の開業を目指す。幕張は成長産業やそれを担う企業の誘致や、国家戦略特区の指定を受けてドローン宅配の実験をするなど、未来の都市づくりを模索。稲毛海浜公園のリニューアルが進むなど街の魅力は高まりそう。

1 2020年完成予定 稲毛海浜公園

海水浴でにぎわう 稲毛海浜公園がリニューアル

都心部にありながら手軽に海水浴ができる場所として、夏には多くの人でにぎわう「いなげの浜海水浴場」。この海水浴場を含め、長さが約3km、広さが約83haを誇る稲毛海浜公園がリニューアルされる。砂浜の改修、海へ延びるウッドデッキ、流行りのグランピング施設や宿泊施設などを整備する予定だ。



リニューアル後の稲毛海浜公園の完成予想イメージ (画像提供/千葉市)

2 2020年頃 実用化予定 ドローン宅配

国家戦略特区で ドローン宅配実験

国家戦略特区の指定を受けて、幕張新都心エリアでドローンによる宅配の実証実験を重ねている。東京湾臨海部の倉庫で積んだ荷物をドローンでマンションの住戸に輸送することを目指す。



2016年から実証実験を開始。写真は10月に実施した実験の様子

3 2024年 完成予定 京葉線幕張新駅 (仮称)

イオンモール幕張新都心近く 京葉線で4駅目の新駅開業

京葉線の新駅は、八丁堀、越中島、潮見に続いて4駅目となる。新駅の予定地は、京葉線の新習志野駅と海浜幕張駅のほぼ中間に位置し、イオンモール幕張新都心の近くになる予定だ。



新駅設置予定地 (画像/PIXTA)

駅TOPICS

千葉駅エリア

千葉駅ビルがリニューアル 西口と東口の再開発が進む

今年6月、ペリエ千葉のオープンで千葉駅の利便性が向上したが、今後も西口や東口で再開発が予定されている。西口では、2013年に完成した「ウェストリオ」の向かい側に病院やスポーツ施設などが入る複合ビルと病院が建設予定だ。一方、東口では、約3300㎡の敷地に地上9階建ての複合ビルが計画中で、それぞれの開発により、街のにぎわいが一層増すばかりだ。



西口では地上15階建ての病院と2棟の複合ビルが建設予定。完成予想イメージ (画像提供/千葉市)



東口で計画中の複合ビルの完成予想イメージ。(画像提供/千葉駅東口地区市街地再開発組合)



大宮・さいたま新都心エリア



40年来の複合再開発が進む 大宮駅を中心ににぎわいを創出

さいたまスーパーアリーナが競技会場となるさいたま市。都心へのアクセスが良くだけでなく、東北への玄関口でもある大宮駅では、東口と西口周辺で大規模再開発が進行中だ。大宮駅の西口と東口をつないで回遊性を高める「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」を掲げ、東口では約1

万4000㎡の敷地に複合ビルを建設。西口には徒歩数分の所に総住戸数が580戸のマンションが竣工予定だ。また、「さいたまスーパーアリーナ」があるさいたま新都心駅から徒歩5分の場所に住戸数が約1400戸を超えるマンションが建設予定。開発により、利便性や住環境の一層の向上が期待できる。



2 2021年度 完成予定 大宮駅東口

ホールや多目的施設を整備 さいたま市民が集える場に

大宮駅東口の大門町2丁目中地区で、約8600㎡の敷地に地上18階建ての複合ビルが建設される。オフィスや商業施設に加え、市民ホールや多目的の公共施設などが入る。外周部に緑地や広場を整備することで、市民が憩える場にする。竣工は2021年度予定。(画像左)

完成イメージ (画像提供/大宮駅東口大門町2丁目中地区市街地再開発組合)

3 2022年 完成予定 大宮駅西口

大宮駅西口から数分の好立地に 計580戸の高層マンションが誕生

大宮駅西口第3-B地区では複合タワーが建設予定だ。住居だけでなく、商業施設やオフィス、駐車場なども入る予定。南側の隣接地には大宮ソニックシティもあり、交通や生活利便性に加えてビジネス拠点としても魅力的だ。



完成予想イメージ (画像提供/大宮駅西口第3-B地区市街地再開発組合事務局)

1 2021年 完成予定 さいたま新都心

総計画戸数約1400戸 新都心のランドマークに

大宮駅の隣駅であるさいたま新都心駅から徒歩5分の場所に15階建ての大規模マンション「シントシティ」が建設される。広大な敷地にセンターフォレストやスタディブースなど共用部が充実。近隣にコクーンシティなどの商業施設があり、住環境は充実。(画像右)

完成予想イメージ (画像提供/東京建物)



郊外TOPICS

朝霞・狭山エリア

スマートタウンを開発 2020年に街びらき予定

射撃競技が行われる陸上自衛隊朝霞訓練場がある朝霞市では、積水化学工業が東京工場跡地に、一戸建て130戸、商業施設、集合住宅からなるスマートタウンを開発。環境配慮やビッグデータを活用したサステナブルな街づくりを目指す。街びらきは2020年を予定。また、ゴルフ競技会場の霞ヶ関カンツリー倶楽部が市内にある狭山市では、西武新宿線狭山市駅近くの旧中央公民館などの跡地を再開発する事業が進行中だ。



積水化学工業が自社工場跡地で再開発中のスマートタウンの完成予想イメージ (画像提供/積水化学工業)



西武新宿線狭山市駅近くの旧中央公民館などの跡地を再開発する。完成予想イメージ (画像提供/狭山市)

まだまだある!

2020年から2025年ごろに行われる

注目の再開発

五輪競技会場周辺だけでなく、他のエリアでも、2020年から2025年頃にかけて再開発が目白押しだ。今後、生活利便性や資産価値の向上に期待が高まる大規模プロジェクトを紹介する。



流山おおたかの森駅 2020年完成予定

マンションやホテル
官民一体の複合開発

川口駅 2022年完成予定

人気の老舗商店街に面し
住宅480戸を含む複合ビル

板橋駅 2024年度完成予定

西口を大規模再開発
竣工予定は2024年度

京成立石駅北口 2022年度竣工予定

西街区と東街区を合わせて
約1万1780㎡を再開発

橋本駅 2027年完成予定

リニア新駅を建設予定
開業に向け開発本格化

池袋駅 2020年完成予定

シネコンなど劇場が入る
区庁舎跡地にハレザ池袋誕生

小岩駅 2026年度完成予定

北口駅前に29階建てタワー
2026年度の完成を目指す

西武小川駅西口 2022年度完成予定

地上28階建ての複合タワー
完成予定は2022年度

春日・後楽園駅前 2021年完成予定

3つの街区を再開発
2021年に全街区が完成

中野駅南口 2022年完成予定

37階と20階のツインタワー
2022年12月の竣工予定

海老名駅 2025年度完成予定

小田急とJRの駅間に
大規模複合タウンを開発

本厚木駅 2020年度完成予定

地上22階建ての複合タワー
駅前広場も整備